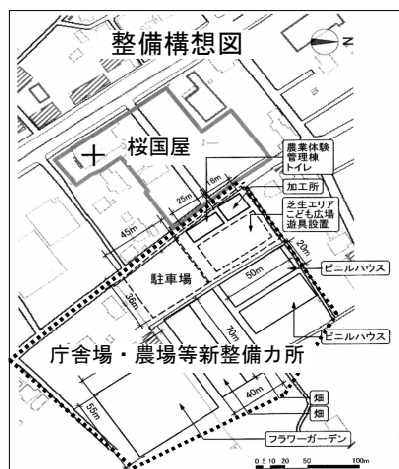
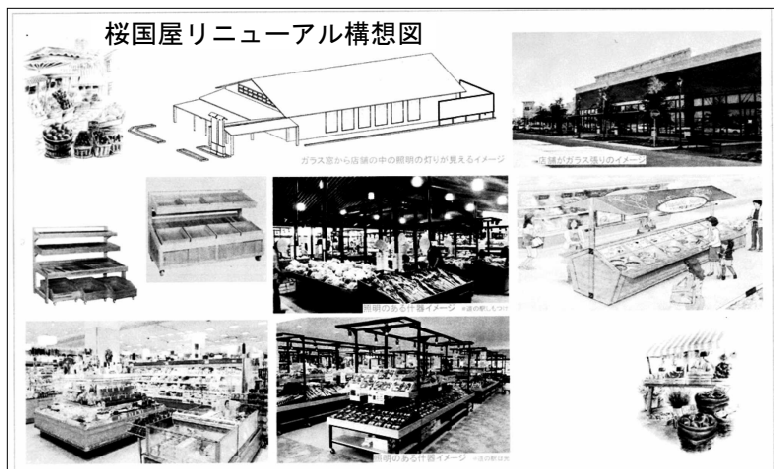


桜国屋に数億円税金投入へ

現王園市長の経済政策稼ぐまちは「大金（税金）使って小銭を稼ぐ」のか



＝この計画は、15年前の農のあるまちづくり事業（石津前市長が中止）計画の焼き直し＝

財政のプロ?の税金使い方素人には理解不能

市長は農業ふれあいセンター（桜国屋）のリニューアル構想と来年度予算要望一覧表を議会に提出しました。これを見て、悪夢がよみがえりました。15年前、加藤元市長が計画した「農のあるまちづくり事業」です。市長になった石津氏が事業を中止、当該地主に賠償金3千万円支払ったものと、まったく同じ計画です。時代錯誤の極です。

万円の税金で建設しました。それから15年、現在は年売り上げ約3億円、その1.5%（450万円）が使用料収入です。そこから300万円を駐車場の借り賃として支払い、諸経費引いて100万円残るかどうかわかりません。建設費1億8千万円を回収するには、180年係る計算で、残りは165年必要です。このような非効率な事業では民間なら倒産です。

税金使って稼ぐまちNO

現王園市長の口癖は、「市には金が無い」そして「稼ぐまち」です。今議会に示した「桜国屋のリニューアル構想」は稼ぐまちの政策で、予算要望には2億3千万円と記載されています。

我々は、市長に資金計画と投資対効果について質問しました。答弁は「資金計画は立っていない。補助金等が不明であるから。投資対効果は、グリコの工場見学者を桜国屋に寄ってもらい、農産物やトマトカレーを食べてもらう。また、農業とふれあい交流を深め観光の振興を図る」というものでした。数字の説明は一切ありませんでした。現在の桜国屋の売り上げは約3億円、リニューアルでいくらの目標かと聞いたら「5億円にする」と答弁しました。

桜国屋は平成15年に開業、1億8千

公私混同・地位利用、選挙目当ての市政に懸念

現王園市長の再選出記者会見は、公務として行ったのか、それとも市長個人の政治活動かと質問したら、定例記者会見の流れの中で行ったので「公務」であると答弁しました。市長の公務と個人の政治活動を線引きすることは難しいが、「選挙に直結するもの」は公務とは言えないのではないのでしょうか。

職務中の一般職員を同席させ「選挙に出馬するとの会見」は、個人の政治信条を述べた行為で、政治的行為と言えらると思います。地方公務員法では、「職員は全体の奉仕者で、職務に専念をする義務、政治的行為には中立性を保持する観点から制限される」と規定されています。指揮命令権を持っている市長は、常に職員には職務に専念させ、自らの政治的行為・選挙の準備行為には参加させることは、厳に慎むべ

お公家ビジネスは危険

今回は予算要望で2億3千万円です。売り上げ5億円で使用料750万円、そこからこれまでの駐車場の借り賃300万円と新しい駐車場と農場の賃借料含めると、収支は赤字です。大金使って、稼ぎのない」の稼ぐまちになります。役人のお公家ビジネスは危険です。

平成29年度にも、地方創生交付金で、はどバスの車体にトマトカレーのラッピング（2カ月間）とグリコの工場見学と桜国屋等に立ち寄るツアーを700万円で委託、5回の日替わりツアーが実施されたと報告していたが、市内経済のどこにより良い影響を与えたか、全く不明のままです。国の資金（税金）とはいえ、費用（税金）対効果が実感できない政策をこれからも続けるということでしょうか。税金の使い道は他にもたくさんあります。

きと認識します。

また、市長は、報道発表と称して「記者会見で述べた自分の政治信条の要約文書」を、市の公式ホームページに掲載しています。これは市政の公私混同、公平性、中立性から見て不見識であると同時に、公職選挙法で禁止されている「地位の利用」にも該当する可能性があると言及しました。

さらに市長は、書道展に出展する自分の書の練習に、職務中の職員に手ほどきさせるという「職専念義務」違反を犯し、それを知った職員たちは公私混同と困惑しています。

前任者の同様の行為を批判して当選した現王園市長、さらに市政をゆがめています。われわれは、職務中の職員を市長の選挙（類似行為）に巻き込むなど声を強く忠告しています。